水と緑と風薫る街　MINT CITY KOYO

青年部報告

青年部部長　佐藤 誠治

商工会青年部　忘年会と家族会

平成二十年十二月二十七日（土）今年最後の土曜日に、商工会前の駐車場にて青年部とその家族が集まり盛大な忘年会が行われました。

焼き肉にモツ鍋そして餅つき。いつもながらにおいしい料理と美味しいお酒。そしてほろ酔い？気分での餅つきは子ども達ばかりではなく、嫁さん方も大いに参戦し日頃のストレス？を解消していたようでした。上手につけたお餅をみんなで丸め、二段重ねの鏡餅や、御雑煮や焼き餅用のお餅を各自持ち帰り、年越しはおいしいお餅を食べたことでしょう。

きびしい社会情勢の中、来年は白木町商工会とも合併し青年部のメンバーも増え若い力でますます盛り上げていかねば・・・必ずや新高陽町商工会元年として皆様にとっていい年になるよう微力ながら地域を盛り上げていこうと思いますので今年もよろしくお願いいたします。

記事　文化委員長　小野慎治

スキーツアー

二月一日（日）に八幡高原191スキー場に、十一家族三十一名で行って参りました。

好天にも恵まれて、みんな楽しく一日を過ごしました。

初スキーの方も何名かいたようです。

小さい子ども達はソリなどを持って来て滑っていました。

私も親子三人で初参加させて頂き、スキーは滑れないので、小さい子ども達とソリで遊びましたが、子ども達以上に楽しめたように思います。

昼には、おでんやもつ鍋などしてみんな腹いっぱい食べたり飲んだりして満足していました。

私は今までにあまり行事には参加した事がなかったのですが、青年部を今年で卒業という事もあり参加してみようかと思い参加してみましたが、青年部とその家族の方や、青年部以外の方などにもコミュニケーションがとれて、家族同士の付き合いも出来るようになり大変良かったと思います。

これからも他の行事にも積極的に参加していきたいと思います。

記事　原藤佳紀

まちづくり新事業策定委員会報告

副会長兼 まちづくり新事業策定委員長　木戸 経康

韓国済州島視察旅行

平成二十年十月八日～十日

去る十月八日から三日間、隣国韓国の『済州島』に、観光資源を活用した観光都市の商業施設視察に総勢二十名にて行ってきました。

済州市は二十年近く前にも訪れたことがありましたが、街の雰囲気が当時とまったく変わっていました。そのなかでも今回一番強く感じたのは　生活水準が飛躍的に向上したように思えたことです。自動車なども日本と同じ、いやそれ以上の車に皆が乗っており、経済発展していることを、強く感じました。

済州島は　韓国内でも東洋のハワイと呼ばれ年間五百万人の観光客が訪れる韓国では世界自然遺産にはじめてユネスコに登録された人気リゾート地であります。特に印象に残ったのは、特別地域として実際に百年以上前の昔のままの建物に居住し生活を続けている民族村の見学でした。韓国ウオンの値下がりで円高の恩恵もうけ、皆さんにも旅行を楽しんでいただけたと思います。

記事　木戸経康

『島おこしみかん狩り』

毎年恒例になりました『島おこしみかん狩り』を十一月十六日（日）に総勢五十四名もの参加を頂き実施いたしました。

当日は天候にも恵まれ、現地（東広島市安芸津町の大芝島）でみんなで楽しく過ごすことが出来ました。

中でも小学生以下の子供たち十三名には、みかんの木をはじめて見た子供もいた様子で、はさみの使い方を聞き、実際にはさみを使って自分で採った新鮮なみかんを食べて感激している子供たちを見て、ほのぼのとしたものを感じました。

その後楽しみにしている焼肉を頂き、行事を無事終了することができました。

記事　沖田龍一

役員研修旅行報告

事務局

「大阪狭山商工会と長浜（株）黒壁の見学」

平成二十年十二月二十八日・二十九日の旅程で役員研修旅行を役員と女性部副部長・事務局の十七名で実施しました。

午後一番で大阪狭山商工会を訪問。先方の正副会長と事務局長さんの出迎えを受け、「大阪狭山商工会」の概要、組織率九十％と言う驚異的な組織率の秘密について会長・事務局長から豊富な資料に基づき説明を受けました。人口が6万と高陽町と似通った環境であることも今回訪問の理由です。役員・事務局の組織防衛・組織拡大の意識の高さ、執念が根本にあり、それを支える地区会の活性化が高い組織率の根源の様に感じました。周辺商工会との共同関係も参考になりました。今後の高陽町商工会の運営に大いに参考にしたいと思いました。

翌朝は長浜城を見学の後、（株）黒壁を中心とした「長浜のまちづくりの歴史」についての講義を約1時間半聴き、古い町並みの見学を行いました。

長浜は秀吉により新たに開かれた街で、古い町並みという恵まれた資産に、「ガラス工芸」と言う新しい観光資産を呼び水にして観光客誘致に成功したケースです。「ガラス工芸」は「小樽・北一硝子」と「可部・ガラスの里」を参考に始めたそうです。「まちづくり」もよくある第3セクター経営でなく、九名の出資による株式会社方式で行政を頼らない自主運営であることが大きな成功要因のようです。ただ、年々の観光客の減少傾向へのこれからの対策が大変な課題の様です。

二日間の貴重な役員研修旅行でした。これからの商工会の運営に役立てたいと思います。

水と緑と風薫る街　MINT CITY KOYO

工業部報告

工業部部長　吉井 俊治

「工業部 視察旅行」（十月十六日～十七日）

昨今、輸入食品や国内食品メーカーの偽装表示など「食の安全」が社会問題になっていることから、今回の視察旅行は愛媛県にある“伯方の塩工場”と“アサヒビール四国工場”の二箇所を視察した。

伯方の塩工場では「自然塩」に近い方法で製造される工程を見学し、最後に体に必要な微量元素を残すために竹を敷き詰めた乾燥室で自然乾燥させる作業を見学しました。

また、アサヒビール工場では「おいしさへのチャレンジ」をモットーとした品質管理や製造工程を見学し、さらに地球温暖化防止・水資源保全等の環境保全への取り組みも見学しました。

ビール工場見学後はゲストホールで出来立てのスーパードライを試飲し、これまで味わったことのない美味しいビールをいただきました。

工場視察が終わり、早めに宿泊施設に到着して、道後温泉にゆっくり浸かれば旅の疲れも取れて、懇親会では「酒と肴」も手伝って大いに歓談しました。とても有意義な視察旅行となりました。

記事　吉井 俊治

「二十年度　企業訪問報告」

この“企業訪問事業”は、製造・建設業を営んでおられる会員事業場を訪問視察することにより、事業実態を学ぶと共に管内企業の連帯を図る目的で昨年度（十九年度）より始めた事業です。

今年度は、左記の二つ企業を訪問しました。

①有限会社　榎並ステンレス研磨
代表取締役　榎並　敏昭

所在地　安佐北区小河原町二五一
訪問日時　平成二十年十二月十九日　午後四時～五時三十分
事業内容　ステンレスプレートの表面研磨
創　業　昭和四十八年十月、当地にて創業。
視察内容　社長より、ステンレスの種類について説明を受け、その種類や用途によって、研磨工程が一次・二次・三次の仕上げ工程があること学び、それぞれの研磨状況と状態を見学。ここで研磨されたステンレスが業務用の流し台や厨房施設さらにダクトとなることを学習しました。

榎並ステンレス研磨　工場内視察

②有限会社　タイヨー樹脂
代表取締役　田邊　明利

所在地　安佐北区口田南二二二六―十一
訪問日時　平成二十年二月九日　午後五時～六時
事業内容　約百社（市内中心）の特定企業からの受注により樹脂加工（製品・部品）
創　業　昭和五十七年
視察内容　一階の加工作業所では工作機械の説明や、取扱製品の説明を受け、二階のデザイン室・管理事務所でパソコンによるフイルムカットや取引先とのデーター受発信システムについて説明を受け、これからの光源とされる「発光ダイオード」の商品化について見学しました。社長曰く、「社員を大切にし、その生活を守ることが企業の使命」であるとのこと。

タイヨー樹脂　工場内視察

女性部報告

女性部部長　大瀬戸 紫苑子

「日帰り視察旅行と忘年会」で、おおいにコミュニケーションを図りました！

昨年の十一月十三日、女性部員の最大の楽しみである視察旅行を三十名の参加者で実施しました。視察先は愛媛県松山市にある「坊ちゃん劇場。「竜馬」の観劇をしました。「竜馬」は幕末に生きた竜馬の高い志と自由奔放な人柄をミュージカルにしたもので、笑いあり、涙ありの感動を得た視察旅行となりました。

さらに、日本庭園を望むホテル奥道後で「山海の幸会席」を昼食として舌鼓し、部員間のコミュニケーションを図りました。

盛り上がった忘年会

思い出の視察旅行

また、十二月九日には、恒例の忘年会（参加者二十七名）を「深川吉車」で開催し、事業反省と次年度の方針などの談議に花が咲いてあっという間の楽しい二時間を過ごしました。

二十一年度からは、白木町商工会と合併し、さらに大きな組織運営をしなければなりませんが、こうしたコミュニケーションを大切にして、事業推進をしたいと思います。

記事　大瀬戸 紫苑子

商業部報告

商業部部長　奥田 幸彦

尾道本通り商店会　視察

去る十月十日、二十名の皆様の参加を頂き尾道本通り商店会を視察いたしました。

最初に尾道帆布と言うお店を訪ね、NPO法人『土房おのみち帆布』の木織雅子理事長様より色々お話をお聞きいたしました。興味深い話だと思いましたので、皆様にもご紹介をしておきます。

古くから港町として栄えた尾道で、船の帆やテントに使われてきた帆布をアレンジし尾道の地場産業の再生はかろうと　NPO法人を設立（現在会員六十名）されたそうです。大事なことは『若い人と私たちベテランが意見を出し合い、若い人に多く参加してもらったことで成功できた』ということ。もうひとつは『皆様も二足のわらじを履いてください。一足は本業、もう二足は、地域に貢献できるボランティアというわらじです。私はこの活動によって　世界が広がりました」というお話でした。いいお話も聞け、大変有意義な時間を過ごす事ができました。

記事　高野 義登